

# 磐城時報

編輯者 石城郡平野町野田十四  
印刷者 石城郡平野町野田十四  
印刷所 石城郡平野町野田十四  
電話 一四〇  
發行所 石城郡平野町野田十四  
電話 一四〇  
廣告料 一行十文字五錢五分  
印刷料 一行十文字五錢五分  
訂金 一月十元  
代金 一月十元  
休刊日 日曜日、祭日、休刊

## 共産黨事件の 嚴正批判演説

### 田中博士外數名が 二十二日四倉町で獅子吼

磐城青年同盟會では既報の如くであるが、當局では二十一日二十三日午後一時から四倉町海左の如く正式に發表した。盛座で例會を開き會務報告、役員改選の後午後二時から四倉公園で觀禮會を開き午後六時から公開演説會を開く筈であるが、辯士は明治大學教授經濟學博士田中實氏、青年公論社長大和田儀平氏の何れも共産黨事件に對する嚴正批判の演説がある。

## 東京電話

### 本郷の天然痘

東京市本郷區湯島天神町米穀商矢田甚五郎方寄宿中川ツヤは十八日發病醫師は猩紅熱と診斷し胸病院に隔離した。二十一日天然痘と判明した。

## 大倉翁は 時間の問題

危篤に陥つた大倉翁の容体はその後一進一退で全く絶食、意識は時々明瞭を欠き時間の問題であると言はれてゐる。

## 水道水について 正式の發表

平町の腸チフスについて水道の三四人の手を取らねば押動かす言はれ貨物驛手君等の喜びは大郡農會大山技師等出張指導する前五時半頃上小川村大字西小川に打撲傷を負ひ生命危篤である七坑へ入坑作業中天磐落下の下敷となり壓死を遂げた。

## 平野の山口氏が 又珍らしい發明

### 三四人の働らきをする 二重自動車機

鐵道局書記平野貨物主任山口學助が事が出來得るのみならず三七氏は貨物の荷札印刷機を十五噸空車七輛までは該機を使つて取替の能率を増進せしめて一人にて動かし得る事かじめ以來該機を各方面に普及し出來るものでこれには普通の場て事務増進上に大の貢獻をし合十三四人の手を取らねばならぬが、この程更に同氏によつたのであるからこれが発案された二重自動車機は從來能率増進は偉大なものであると、平町の腸チフスについて水道の三四人の手を取らねば押動かす言はれ貨物驛手君等の喜びは大郡農會大山技師等出張指導する前五時半頃上小川村大字西小川に打撲傷を負ひ生命危篤である七坑へ入坑作業中天磐落下の下敷となり壓死を遂げた。

駐在所に就き調査を遂げました。水源地方面には腸チフス患者は全然ありませぬ、唯澤渡村に昨年八月から十一月迄三人の腸チフス患者があらうましたが其後は皆無でありました。又本町上水道水源地と同じ好間川の水を飲用して居る好間村の大半と磐城炭礦にも腸チフス患者無きことより見ても上水道の關係でないと思ふのであります。向終りに一言致して置きたい事は、腸チフスとは關係ありませんが水栓口には常に好く掃除をする事同時に長びものは此際出するだけ詰めて貰ひたいものであります。

### 羽岡氏昇進 平野署署長

七日更に吏を好間村、箕輪村、澤渡村、内郷村、磐城炭礦方面に派遣し各村役場及び技師に昇進高等官七等となつた。

### 銀行同盟會

石城の出席者  
大浦村駐在巡查鈴木賢典氏は過り神時から雨櫃まで全部共同作業ダイナマイトが破裂し無慘の業を行ふに於て縣下類例の最後を遂げたが四倉署水谷署長は署員其他地方有志と共に十九日午後一時から演武場武場で莊嚴な追悼會を行つた。

### ダイナマイトで死んだ 鈴木巡查追悼會

四倉演武場で舉行

### 踏切りに自動車をおいて 運轉手逃げる

川前村の椿車

### 青年團員見學

平町の一行上京

### 入山自治會で 思想講演會

### 木炭評議員會議

三郡木炭同業組合では十九日午前十時から元石城郡街内検査員會を開き事務打合せをなし午後一時から評議員會を開き常務線植田、久の濱、富岡、夜の森の各管内に設けた木炭倉庫の修費補助當につき協議をなし終つて松ヶ岡公園で觀禮會を開いた。

### 觀世素諾會 平觀世會

は来る二十九日午前九時から野島、古川、鳥越の各氏を招き谷口樓で素諾會を催はす筈で番

### 松崎の自動車 田の中に轉落

運轉手は無事

### 二名死亡

チブス患者

### 植田物産總會

植田物産株式會社株主總會は廿一日同社で開き營業決算をなす筈である。利益配當額は九分である。

### 觀世素諾會 平觀世會

は来る二十九日午前九時から野島、古川、鳥越の各氏を招き谷口樓で素諾會を催はす筈で番

### 四倉衛生掃除

四倉署管内春季衛生掃除日割如左。  
四月二十三日久之濱町、同二十五日四倉全町、同二十六日草野村、同二十七日大野村、同二十八日大浦村、五月一日大久村

### 落磐の下敷

福島炭礦夫壓死  
伊達郡靈山村生れ當時石城郡赤井村高秋福島炭礦坑夫松村吉三（四八）は十八日午前八時頃第七坑へ入坑作業中天磐落下の下敷となり壓死を遂げた。

### 原齒科醫院

平野土橋通り  
電話三一三番

花時戲作

尼子橋守

花見るもよけれど酒に酔ひ強  
れて命を捨てる人の愚かさ  
不見轉ら此の不景氣を如何に  
せん花は咲けども客は来らず  
花咲けどサラリーマンの悲し  
さは事務に追はれて酒も汲  
得ず

橋まじき春なり後家も出戻り  
も性に目覺めし乙女心も  
旅人も驚くならむ花時の我平  
町の自動車の数  
花の下雪洞の蔭鬱成りて若き  
二人の恵まるゝ春  
出戻りを一人残てし家中が華  
やかに来る花の真盛り  
飲み足らぬ仲間を誘ひ散り初  
めし花へも一度酒提げて来る  
近く春の寂しき心癒やさんと  
老妓或夜を茶椀酒かな

映畫界

▲鼠小僧次郎吉(上)  
天保の晩年江戸八百八町の捕  
繩を巧みに切りぬける鼠小僧  
次郎吉があつた。或る日は彼は  
た傳馬町で相牢した狐の親分  
六兵衛と巡り合つた。その夜  
次郎吉は乾分白瀧銀次と共に  
捕吏に追はれて逃げ去つた。  
後で六兵衛は次郎吉の裏入れ  
を拾ひとつた。向島小猫の  
やうな向疵の音松は貧苦に喘  
ぐた定母娘を迫害してゐたが  
茶屋の老婆とよに救はれた  
それと次郎吉の志であつた。  
その歸途次郎吉は目明しみて  
りや文造を三圍の堤に誤つて  
手にかけた。次郎吉の父次郎  
兵衛は達摩の權九郎から娘を  
葉をがまされ途にお葉を奪は  
れた。計らざるも通りかつた次  
郎吉は葉の危難を救つたが  
捕手に圍まれ銀次と共に格闘  
を續け次郎吉は清元師匠延富  
美の家に救ひを求めた(平館)

お花見の御料理に  
牛豚肉!!!

牛中肉	百匁	金二十五銭
牛上肉	同	金四十五銭
口上肉	同	金六十銭
ヒ口肉	同	金九十銭
豚中肉	百匁	金二十五銭
豚上肉	同	金四十五銭
口上肉	同	金五十五銭

平町停車場前(平劇場入口)  
食肉の 廉賣王  
電話五二四番

櫻は公園!! 呉服は三井!!!  
春衣新柄特製品宣傳賣出し

◎花見手拭別 染一本金八錢  
◎花見足袋 黒朱子 金三十銭  
白キヤラコ 金二十銭  
新館階上階下にはあらゆる春の新柄と京入形が  
陳列されて居りますから何卒御覽下さい。

三井呉服店

春物御案内

- 婦人洋服
  - 子供服
  - 合着毛シャツ
  - 春帽
  - ワイシャツ
- 各種店内ニ陳列致シマシタ

店商ヤルツに

【番十四百話電】町平

水光齊祐月

雛人形小道具一式

大勉強賣出し

陳野洋品店

眼樂亭久月  
特製雛人形賣出し

金太郎玩具店

京都齊ヒナ人形  
小道具一式 大安賣

玩具行商人數名募集  
平町二丁目 いづや

季節向御料理大勉強  
愈々公園の節

松ヶ岡公園池ノ端(電話三二六番)  
廉賣 親切第一 割烹とさきわ  
町噂

セメント 磐城セメント株式会社

壁用材料  
コールタール  
ペンキ塗料  
板ガラス  
代理店 西村屋藥舖  
平町二丁目  
電話三番

天下の勝勿來の關を背景として山紫水明の  
地に醸成されたる大黒屋酒造店銘酒「酔の  
郷」は芳醇無比として年と共に好評を重ね  
つゝあるが、今回同店にては更に一般愛用  
者各位へ謝恩の爲め吟醸 都々逸の披露を  
兼ね、當地平館向にも支店を設置して左記  
の通り謝恩大賣出しを開始する由。

大黒屋支店

電話三〇六番

江戸前

魚御料理 うなぎ井

蒲焼 うなぎ井

◎出前は迅速に配達致します

平町南町 魚 榮  
電話四二四番

募集廣告

小店員 十三才ヨリ十六才 五名

徒弟 十三才ヨリ十六才 十名

丸はん家具製作所

平町新田前 丸はん家具製作所

滋養、強壯劑として愈々好評  
偉大なる藥酒 栗守酒

朝の一盃は精力の根源、晩の一盃は休眠の助力  
栗守酒特約店 大平屋藥店  
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話六四二)